日本経済新聞
4月28日
金曜日

高齢者でも飲みやすい栄養補助食品

テクノサイエンス（千葉県柏市）は医薬品や栄養補助食品の開発を手がけるファブレス型の企業だ。水が無くても飲みやすい製品や体内に吸収されやすい製品を得意とする。いま特に力を入れるのが高齢者向けのゼリー状飲料タイプ。体への負担を抑え、少量でも栄養を取りやすい技術の開発に力を注ぐ。

設立は2004年。大手食品メーカーで医薬品などの開発に長年取り組んできた樫本和久社長が立ち上げた。筋肉をつくるためのペプチド・アミノ酸、寝たきりによる褥瘡（じょくそう）の治癒に必要なアルギニンはそれぞれ年間10万包を販売する。脂質の代謝を促すカルニチンシリーズはスポーツ選手にも愛用者が多い。

このほか、美容効果も期待されるコエンザイムQ10が補給できる食品、筋肉の凝りやむくみを穏やかにするたんぱく質分解酵素を使ったサプリメントも手がけてきた。

同社の得意分野は水がなくても服用できる製品の研究開発だ。樫本社長は会社設立以来、人工透析患者向けの栄養補助食品の開発に取り組んできた。透析患者は日常生活で水分の摂取を制限されるため、水分が少なくても飲みやすくする技術力が問われた。

この技術を応用して高齢者向けのゼリー状製品の開発に取り組んでいる。高齢者は飲み込む力が衰え、粉末状の製品では服用時に喉に残ったり、気管を詰まらせたりするリスクもあったからだ。

ただ、単純にゼリー状にすれば問題が解決するというわけではなかった。有効成分を凝縮して少量に抑えるというハードルがあった。効果を高めようとすると飲まなくてはいけない量がどんどん増えてしまう。

テクノサイエンスは医療機器大手のニプロと協力。12年には共同で「ゲル状組成物の製造方法」で特許を取得した。例えば従来品では600ミリグラムのカルニチンを摂取するために、280ミリグラムのゼリーを服用する必要があったが、テクノサイエンスでは高濃縮の技術を使い「5ミリグラムのなかに凝縮できるようになった」（樫本社長）という。

製品はネット通販のほか、ニプロの販路を活用して病院などに販売してきた。まだ売上高の規模は大きくないが、高齢化がさらに進めば「日常の食事だけでは必要な栄養量が取れない人が増える」と樫本社長はみる。

すでに、関節痛をやわらげるとされるコンドロイチンをゼリー状にした製品も開発。スポーツ選手向けに運動中でも簡単に補給でき吸収力の高い食品の開発も急ぐ。今後は介護施設やスポーツ分野などの販路を新しい事業の柱に育てていく考えだ。

知名度不足 課題は販路

生み出してきた商品は徹底的に飲みやすさにこだわってきた。このため商品力には自信を持つが、課題は販路の開拓にある。樫本和久社長が自ら語るように「まだ会社の規模が小さく、知名度がない」ためだ。

そうしたなかで取引先の関心をどうやってひきつけていくのか。樫本社長は「展示会に積極的に出展するなどして商品を少しでも知ってもらうことが重要」と考える。その一方で介護施設や病院といった「需要の現場」から地道なアプローチを続け、販売先を広げていく考えだ。

一点突破 千葉企業の実力

テクノサイエンス
（千葉県柏市）

高濃縮技術で量を抑制

（profile）
2004年1月設立。医薬品や健康食品の開発を手がける。16年12月期の売上高は約1億5000万円。



テクノサイエンスが手掛ける栄養補助食品

掲載日 2017年4月28日 日本経済新聞 地域経済 7ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。